

## ドラギの選択、首相続投か大統領転身か？

～イタリア大統領選出と政局安定の行方～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

◇ イタリアでは来年2月のマッタレウラ大統領の任期が近づくなか、年明け早々にも後継大統領の選出手続きが本格化しよう。現在の議会構成を考えた場合、右派・左派・中道から幅広い支持を得られる人物を探するのは容易でない。ドラギ首相が自ら大統領就任に意欲を見せなくても、適任者が見つからずに、ドラギ首相が後継大統領に選出される可能性もある。その場合も後継首相が上下両院で信任されれば、ポピュリスト政権の誕生につながる前倒し総選挙は回避される。だが、後継首相がドラギ氏同様の幅広い信任を得られるかは不透明で、改革の推進力が低下したり、2023年の議会任期を待たずに政権運営が行き詰まる恐れがある。

イタリアの政局安定の鍵を握るのは、来年早々にも始まるマッタレウラ大統領の後継選出投票の行方だろう。国家元首である大統領は専ら儀礼的な存在とされるが、近年では議会の解散権や閣僚の任命権を通じて、一定の政治的な影響力を発揮してきた。来年2月3日に7年の任期を迎えるマッタレウラ大統領は続投の可能性を否定しており、任期満了までに後継大統領の選出手続きが行われる。投票は無記名で行われ、630名の下院議員、315名の上院議員と終身議員（現在は6名）、58名の地域代表の合計1009名が投票権を持つ。3回目までの投票は3分の2以上の賛成が必要で、4回目以降は単純過半数で足りる。無記名投票という性質から、過去の選出投票では白票・無効票・棄権票が多く、第二次大戦後の12回の投票のうち、初回で決まったのが2回、10回以上に及んだことも4回あり、最多は23回に及んだ（図表1）。予め立候補者を募って投票を行う通常の選挙とは異なり、本人への事前のすり合わせもないまま選出手続き中に新たな候補者が浮上し、そのまま大統領に選出されることも珍しくない。例えば過去3回の選出投票をみると、何れも初めの段階ではほとんど票を獲得していなかった候補が最終的に勝利している（図表2）。

現地メディアでは複数の候補者の名前が挙がるが、何れも決め手に欠ける。最終的に過半数の支持が必要で、現在の上下両院の議会構成を考えた場合、右派・左派・中道を問わず幅広い支持が得られる人物でなければ大統領に選出されることは難しい。そうしたなかで有力候補として度々名前が浮上するのが、今年2月に首相に就任した欧州中央銀行（ECB）前総裁のドラギ氏だ。元々ドラギ氏は首相就任以前はマッタレウラ大統領の有力な後継候補だった。政局不安定化とコロナ禍の難局に請われて首相に就任したが、ドラギ氏に代わる大統領候補の選出は難しいとの見方もある。本人は自身の進退についての明言を避けており、このまま大統領への就任に意欲を見せることがなかったとしても、後継選出投票が始まり、過半数の支持が得られる人物がいない場合、ドラギ首相が後継大統領に選ばれる可能性も否定できない。

その場合も後継首相が上下両院で信任されれば、2023年6月の議会任期を待たずに前倒しで解散・総選挙を行う必要はない（図表3）。議会の解散権を持つ大統領にドラギ氏が就任する場合、

コロナ禍克服と復興に重要な局面での政局不安定化とポピュリスト政権誕生につながる総選挙を回避しようとする可能性が高い。ドラギ氏の大統領就任と首相退任が決まれば、イタリアの政治安定が崩れるとの不安から金融市場に一時的に動揺が広がろうが、解散・総選挙が回避されることが確認されれば、市場の動揺は早期に収まろう。その場合も後継首相がドラギ首相ほどの幅広い信任を得られるとは限らない。改革の推進力が低下し、何れかの段階で政権運営が行き詰まり、任期前解散につながるとの不安は拭えない。

(図表 1) イタリア大統領選出までの投票回数

年	大統領	投票回数
1948	エйнаウディ	4
1955	グロンキ	4
1962	セーニ	9
1964	サラガト	21
1971	レオーネ	23
1978	ペルティーニ	16
1985	コッシガ	1
1992	スカルファロ	16
1999	チャンピ	1
2006	ナポリターノ	4
2013	ナポリターノ	6
2015	マッタレッタ	4

出所：イタリア議会資料より第一生命経済研究所が作成

(図表2) 過去のイタリア大統領選出投票の主な候補者と投票結果

## 【2006年】

	1回目	2回目	3回目	4回目
Letta	369	11	10	6
D'Alema	27	35	31	10
Bossi	3	38	0	42
Napolitano	8	15	16	543
その他	124	128	116	28
白票・無効票・棄権票	456	746	798	361

## 【2013年】

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
Marini	521	15	6	3	2	0
Rodota	240	230	250	213	210	217
Chiamparino	41	90	4	0	0	0
Prodi	14	13	22	395	0	0
Bonito	13	10	4	0	9	0
Cancellieri	2	0	9	78	2	0
D'Alema	12	38	34	15	2	4
Napolitano	10	4	12	2	20	738
その他	27	107	97	7	18	14
白票・無効票・棄権票	119	432	512	19	462	22

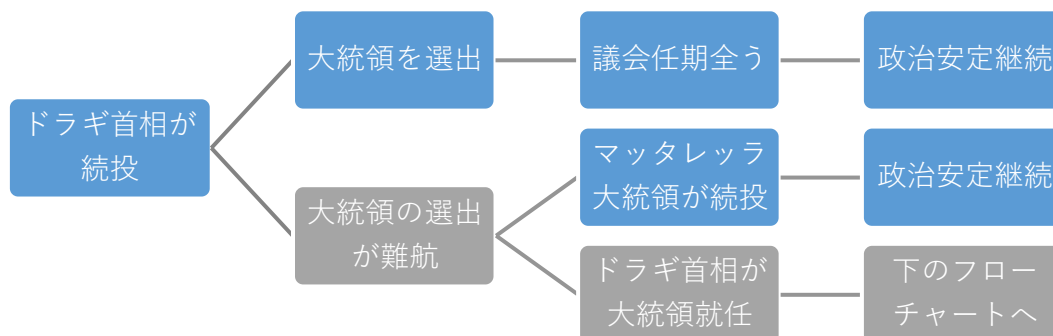
## 【2015年】

	1回目	2回目	3回目	4回目
Imposimato	120	123	126	127
Feltri	49	51	56	46
Castellina	37	34	33	0
Bonito	25	23	23	2
Rodota	23	22	22	17
Mattarella	5	4	4	665
その他	145	139	167	18
白票・無効票・棄権票	571	557	540	118

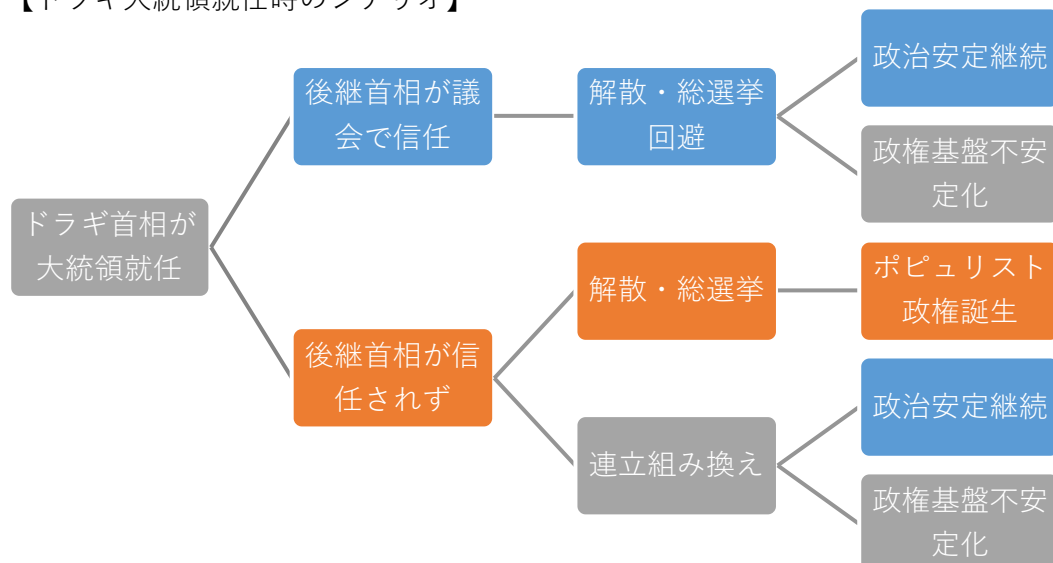
出所：イタリア議会資料より第一生命経済研究所が作成

(図表3) イタリア政局シナリオのフローチャート

## 【ドラギ首相続投時のシナリオ】



## 【ドラギ大統領就任時のシナリオ】



出所：第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。